

# 植物自ら土づくり

## 団粒化阻む無理な耕うん

本来、土の上で植物が生育すると、土は豊かになっていくものである。

植物は土に有機物を提供し、土の中の微生物を増やし、土の団粒を作り、空隙を増やす。すなわち、自然の状況下では土づくりは植物自体が自分で行なってくれている。

### 「木を植える人」

フランスの文学者ジャン・ジオノが著した小説「木を植える人」は、プ

リエという老人が長年

にわたりプロヴァンス地方のやせた土地にドングリの種を植え続けて、森や川を復活させたことを主題としている。

しかし農業においては「土づくり」を考えなくてはならなくなった。それは収穫後に有機物を土に返さないばかりか、その分解を促進し、土の微

生物の種類と量を減らし無理な耕うんによって団粒を破壊しているため

ある。

土づくりはもちろん緑肥の栽培や有機物の施用のみによって達成されるものではない。土づくり

は「地力」を増進するために行われることであり、その地力は土壌の性質ばかりでなく、土壌が置かれた立地条件や環境条件にも影響を受けるからである。

### 段階的に地力増強

帯広畜産大学の菊地晃

二教授は、地力を固定的なものとは考えず、人間の営力によって高いレベルまで向上できるものと考えた。

すなわち、養分が円滑に作物の根に吸収されるような環境条件を確立することにより第二段階の地力まで引き上げ、さらに作物生産を維持・増強するために必要な養分量および質を確保することにより第三段階の地力まで引き上げることがで